

身近な環境の良さに気づき主体的に活動する児童の育成 —学区の特色ある教材を生かした生活科学習への取組を通して

佐倉市立内郷小学校

教 諭 武内 大輝

1 主題設定の理由

本校は、創立から116年を数える歴史ある学校である。各学年1学級の小規模校であり、学校周辺には豊かな自然が広がり、通学路には田園風景や岩名運動公園が位置し、子供たちは毎日その自然を目にしながら伸び伸びと生活している。学校教育目標「進んで学び 心豊かに たくましく生きる児童の育成」を掲げ、その育成に邁進している。

本校では令和4年度からの2年間、特色ある地域の教材を生かした「佐倉学」を学ぶことにより、郷土への愛着を深め、社会参画意識を高めるための研究に取り組んできた。自分たちが住むまちから輩出された先人の生き方に触れるとともに、まちがもつ良さについて、各学年の発達段階に応じて学ぶことにより、その良さを再認識し、地域のため、人のために自分の出来ることを考えて行動しようとする気持ちが育っていることを実感している。

また、地域には幼稚園・保育園に加え、特別養護老人ホームがあり、継続的に交流活動を行うことで、多くの人と触れ合い、様々な活動を展開する中で、豊かな人間性を育んでいる。

小学校学習指導要領では、生活科の目標は「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し、生活を豊かにしていく」となっている。学習を進めるにあたっては、「主体的、対話的で深い学び」の実現を図るために、単に活動を終えて、「楽しかった」という学習から脱却し、具体的な体験活動を行い、気づいたことを伝え合う協働的な学習の機会を充実させることで気づきの質を高めていくことが重要とされている。

本校では、子供たちが住む地域に豊かな自然や、岩名運動公園・幼稚園・老人ホームなどの、身近で特色ある環境がある。これらの特色を生かして学習に取り入れ、年間を通して触れ合うことで、その良さや自分たちとの関わりに気づき、自分出来ることを主体的に考え、実践する力を育てることが出来るのではないかと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

児童にとって身近な人々、自然など地域の特色ある教材を活用した体験的な活動を行うことで、その良さに気づき、自分自身の生活について考え、主体的に学び合う力が育つだろう。

3 研究の内容と方法

本研究では、2年生生活科学学習での以下の3つの実践をもとにその成果と課題を検証することとする。

- (1) -1 まちたんけんに行こう。
- (1) -2 わたしの町はっけん
- (2) 特別養護老人ホーム（白翠園）との交流会
- (3) 幼小交流会

4 研究実践

(1) -1 「まちたんけんに行こう」の実践より（6月）

① 単元の目標

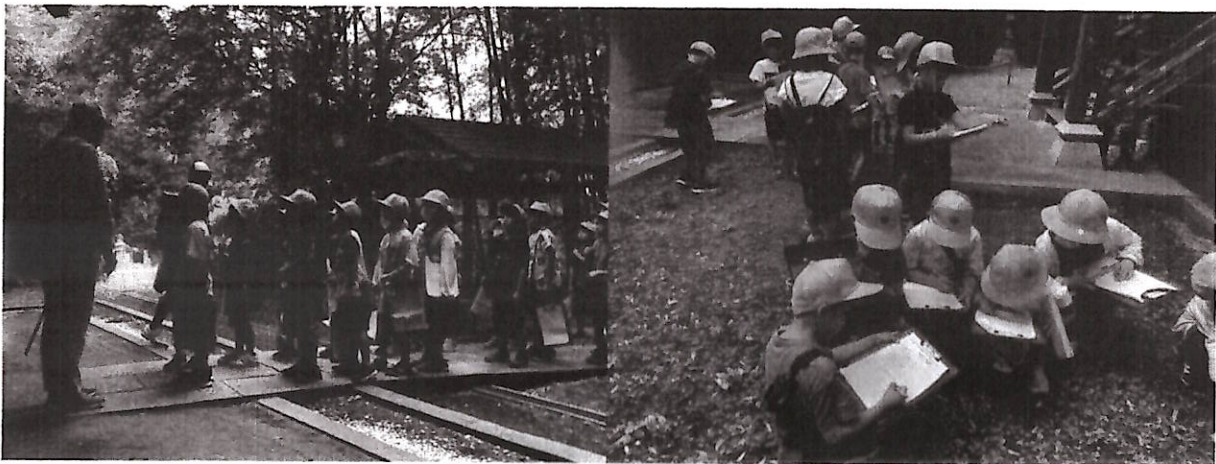
自分たちが住むまちを知ること、そこにある自然の豊かさや人の温かさに気づき、その良さを実感するとともに、自分自身が気づいたことをまとめることができる。

② 指導計画

	児童の活動	教師の手立てと評価（評価■）
まち探検に行こう 9時間	○自然豊かな地区をスクールガードボランティアさんのガイドで探検する。 ・班で協力して記録をとる。 「神社やお寺があるよ。」 「田んぼや畑が多いね。」 「古くて広い家が多いね。」 「お花や木がたくさんあるね。」 ○近隣の施設を中心にグループごとに見学し、インタビューまとしてめる。 「どんな人が利用するのかな。」 「どのようなものがある施設なのかな。」 「利用する人のためにどんな工夫をしているのかな。」	・グループ編成を工夫し、各班にリーダー性のある児童を入れるようにする。 ・ボランティアさんへの感謝の気持ちがもてるように事前に話をしておく。 ・まちで人に会ったら気持ちよくあいさつをするように働きかける。 ■自分が住むまちとの違いに気づき、気づいたことを班で共有しているか。 ・各施設の方と事前に十分に連絡を取り合い、活動の目的を伝えておく。 ・インタビュー内容をチェックし、知りたいことが明確になるように支援する。 ■適切な態度でインタビューし、聞き取ったことをメモにまとめることができたか。
まとめ とした を一年	○自分たちが調べてきたことを班ごとにまとめる。 ・発表する相手にわかりやすく伝えるための工夫について考える。 「どんなまとめにしようか。」 「この写真を使おう。」 「これは伝えた方がいいよ。」 「まとめをする分担を決めよう。」 「発表用の原稿を作ろう。」	・まとめ方の共通理解事項を十分に伝えるときともに、視覚的な補助を通してポイントを掲示する。 ・班で協力することへの意識が高まるように、望ましい行動や言動を全体で取り上げるようにする。 ・一人一人のまとめに目を通しておき、まとめに取り入れたい内容はリーダーに伝えて

生 に 発 表 し よ う 5 時 間	「だれがどこを読むかを決めよう。」 「わかりやすく伝えられるように練習をしよう。」 ○1年生を教室に招いて発表する。 「1年生を案内するのはだれにする。」 「司会は誰がやる。」 「感想を聞いてみよう。」 「順番にゆっくり発表しよう。」 「静かにきてもらえるように聞く人の態度も伝えよう。」	おくようにする。 ・発表を成功させて自信が高まるように、リハーサルに十分に時間を確保する。 ■まとめの目的を理解し、協力して活動に参加しているか。 ・1年生が安心して参加するためのめあてを共通理解して掲示する。 ・自信をもって会が進行できるように、途中途中で発表や態度を称賛する。 ■発表のポイントに気をつけて相手を意識した発表をすることで表現への自信を高めることが出来たか。
--	--	--

③ 活動の様子



スクールガードさんの協力のもと、自分たちの住む町について聞き、メモをとる。

(1) -2わたしの町はっけんの実践より（11月）

① 単元の目標

自分たちが住むまちを知ることで、6月との変化や、安全な町づくりのための良さを実感するとともに、自分自身が気づいたことをまとめ、1年生に発表することで、相手を意識した表現方法を身につけることができる。

② 指導計画

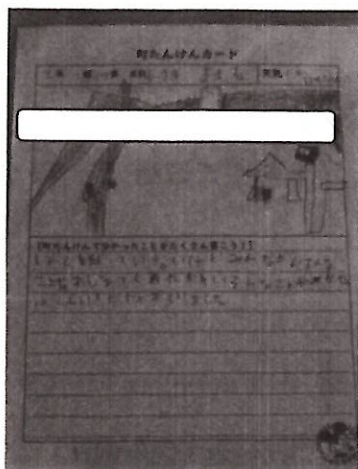
	児童の活動	教師の手立てと評価（評価■）
ま ち 探 検 に 行	○自然豊かな地区をスクールガードボランティアさんのガイドで探検する。 ・班で協力して記録をとる。 「葉っぱの色が変わったね。」 「こんなところにガードレールがあるよ。」	・グループ編成を工夫し、各班にリーダー性のある児童を入れるようにする。 ・ボランティアさんへの感謝の気持ちがもてるように事前に話をしておく。 ・まちで人に会ったら気持ちよくあいさつをするように働きかける。

こ う 6 時 間	「子供110番の家があるね。」 「この標識はどんな意味があるかな。」 ○近隣の施設を中心にグループごとに見学し、インタビューからまとめる。 「どんな人が利用するのかな。」 「どのようなものがある施設なのかな。」 「利用する人のためにどんな工夫をしているのかな。」	■自分が住むまちとの違いに気づき、気づいたことを班で共有しているか。 ・各施設の方と事前に十分に連絡を取り合い、活動の目的を伝えておく。 ■安全のためにしている町の工夫を探し、メモに取ることができるか。そして、まとめることができるか。 ・こども110番の家を見つける。 ・公衆電話を見つける。 ■適切な態度でインタビューし、聞き取ったことをメモにまとめることができたか。
ま と め た こ と を 1 年 生 に 発 表 し よ う 6 時 間	○自分たちが調べてきたことを班ごとにまとめる。(5時間) ・発表する相手にわかりやすく伝えるための工夫について考える。 「どんなまとめにしようか。」 「この写真を使おう。」 「これは伝えた方がいいよ。」 「まとめをする分担を決めよう。」 「発表用の原稿を作ろう。」 「だれがどこを読むかを決めよう。」 「わかりやすく伝えられるように練習をしよう。」 ○1年生を教室に招いて発表する。 「感想を聞いてみよう。」 「順番にゆっくり発表しよう。」 「静かにきてもらえるように聞く人の態度も伝えよう。」	・まとめ方の共通理解事項を十分に伝えるときともに、視覚的な補助通してポイントを掲示する。 ・班で協力することへの意識が高まるように、望ましい行動や言動を全体で取り上げるようにする。 ・一人一人のまとめに目を通しておき、まとめに取り入れたい内容はリーダーに伝えておくようにする。 ・発表を成功させて自信が高まるように、リハーサルに十分に時間を確保する。 ■まとめの目的を理解し、協力して活動に参加しているか。 ・自信をもって会が進行できるように、途中で途中で発表や態度を称賛する。 ■発表のポイントに気をつけて相手を意識した発表をすることで表現への自信を高めることが出来たか。

③ 活動の様子

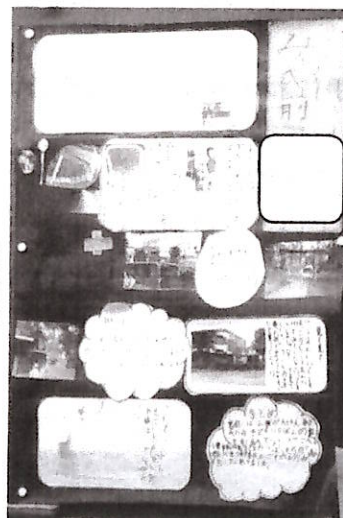


- ・町探検で気付いたことを記入し、まとめたことを新聞にし、1年生に発表。



④ 比較
(1)－1

分かったこと
を書く。
知ったこと
を書くこと
ができた。



(1)－2

1年生に伝
わりやすい
ようにまと
めたり、ク
イズにしたり
することが
できた。

- ・(1)－1では、「何があったか」「楽しかった」ということが多かったが、(1)－2では1年生に発表するために発見したことや感じたことを書くことができた。
- ・(1)－1では、一人ずつの思ったことを伝えたが、(1)－2では、活動した班で発表するための新聞を作成し発表することで主体的で対話的な活動が生まれ、深めることができた。
- ・(1)－2では、テーマの安全からクイズを作り、聞いている1年生の興味を引く発表をすることができた。

(2) 「特別養護老人ホーム（白翠園）との交流会」の実践より（10月）

① 単元の目標

特別養護老人ホームとは、どんなものかを理解し、小学生が特別養護老人ホームに行く意味を理解し、交流する意義を理解することができる。

② 指導計画

	児童の活動	教師の手立てと評価（評価■）
特別養護老人ホームの交流1時間	○白翠園へ行く。 ・運動会で踊ったダンスを披露する。 ・特別養護老人ホームの方とお話をする。 「ダンス上手だね。」 「おばあちゃん元気だね。」 ○白翠園の方から、昔遊びを聞き経験する。 「けん玉をやるよ。」 「牛乳パックをつかってこまを作ろう。」 「風船をつかって遊ぼう。」 「お手玉をしよう。」	・グループ編成を工夫し、各班にリーダー性のある児童を入れるようにする。 ・ボランティアさんへの感謝の気持ちがもてるように事前に話をしておく。 ・町で人に会ったら気持ちよくあいさつをするように働きかける。 ・児童が施設の方と触れ合うように促す。 ■交流できてよかったことを伝えあうことができたか。 ・各施設の方と事前に十分に連絡を取り合い、活動の目的を伝えておく。

ま と め よ う 1 時 間	○自分たちが感じたことを絵日記に書こう。 ・発表する相手にわかりやすく伝えるための工夫について考える。 ・特に印象に残っていることは何か。 ・伝えた方がよいことは何か。 ・おじいちゃんやおばあちゃんと交流できたか。	・交流を目的通してコミュニケーションをとる。 ■楽しかったことや面白かったことを絵日記に表現できているか。 ・絵日記を見せて分かりやすく説明できているか。
--	---	---

③ 活動の様子



- ・白翠園で、運動会で踊ったダンスを披露し、高齢者と交流する。

(3) 「幼小交流会」の実践より(12月)

① 単元の目標

幼稚園児が楽しめるような会を自分たちで考え、自分の役割をしっかりと行い、楽しく交流する意義を理解することができる。

② 指導計画

	児童の活動	教師の手立てと評価(評価■)
幼 小 交 流 会 を 企 画 し よ う	○役割分担をきめる。 ・司会、ゲーム、クイズの役割を決める。 ○自分の役割で、準備を行う。 「ハキハキと大きな声で言おう。」 「ルール説明は私が言うね。」 「クイズは何にしよう。」 「ぼくたちが見本をみせるといいね。」 「私たちから幼稚園生に声をかけてあげよう。」 ○リハーサルをする。 ・声の大きさ考えることができる。	・自分でやりたい役割を決め、責任感をもたせる。 ・幼稚園児が楽しめるゲームを考える。 ・幼稚園児が理解できるようなルール説明で表現したり伝えたりする。 ・説明だけでなく、視覚でわかるものを作り楽しめるような工夫をする。 ■班でわかりやすい説明をすることができる。 ・幼稚園の方と事前に十分に連絡を取り合い、活動の目的を伝えておく。

4 時 間	「ここを変えたほうがいいね。」 「この方が幼稚園生がわかりやすいね。」	■説明が伝わりやすいよう工夫を考えることができる
幼 小 交 流 会 2 時 間	○会場準備をする。 ・机や椅子の準備を素早くできる。 ○リハーサルをする。 ・本番直前に1年生と一緒に流れを確認し、1年生のお手本となるような行動をすることができる。 ○幼小交流会 2年生が主体となり、司会進行や流れを掴み、一生懸命行うことができる。 「一緒に組もう。」 「名前なんていうの。」 「今日楽しい？」 「こっちに移動するよ。」	・会場の準備を率先して行うことができる。 ■本番同様、行うことができる。 ・座るときの姿勢や、1年生へのお手伝いをする。 ・メリハリをもって行動する。 ■2年生が主体となり、司会進行や流れを掴み、一生懸命行うことができる。 ・幼稚園児との交流を積極的に行う。 ・困っているときに声をかけ、動かす。 ・目的を理解させ、幼稚園児が興味を持つような声掛けをさせる。
ま と め よ う	○自分たちが感じたことを絵日記に書こう。(1時間) ・発表する相手にわかりやすく伝えるための工夫について考える。 ・特に印象に残っていることは何か。 「これは伝えた方がいいよ。」	・写真を見せたり、感想を話し合わせたりして、交流会を振り返らせ、絵日記をかく。 ■楽しかったことや面白かったことを絵日記に表現できているか。 ・絵日記を見せて分かりやすく説明できているか。

③ 活動の様子



- ・幼稚園児に遊ぶものを渡したり、遊んだりすることができる。
- ・積極的に幼稚園生と交流することができた。

5 成果と課題

子供たちが住む地域に豊かな自然や、岩名運動公園・幼稚園・老人ホームなどの、身近で特色ある環境から、町探検、白翠園交流会、幼小交流会の三つを行った。

町探検では、地域の散策を実施した。1回目の町探検では、「～があった。」「～がわかった。」のような、個人での感想であった。しかし、2回目の町探検では、テーマを「安全な町内郷」とし、自分たちの安全なもの探しを行った。児童自ら、私たちの安全のためにあるものを探ることができた。探検の中で、公衆電話や子供110番の家を探し、自分たちが危険になった際の対処法を考えることができた。探検を通して学んだことを、グループで話し合いながら作成に取り組むことで協働的な活動ができた。そして、学級で発表した後、1年生に発表を行った。発表の仕方や声の大きさなど、伝え方を工夫することで1年生にも分かりやすい発表にすることができた。

白翠園交流会では、普段交流することない方々ともコミュニケーションをとったり、一緒に遊んだりすることで、高齢者の方々の笑顔を引き出し、児童も楽しく交流することができた。白翠園側は、児童と高齢者との交流を目的としていた。しかし、本来の目的である交流が減り、物を作る活動や遊びに夢中になってしまう傾向にある。今後は、事前に学級で白翠園に入居している方のことを学習してから小学生が白翠園に行くことで、交流を意識した活動を目指す必要がある。

幼小交流会では、いつもの1年生だけでなく、会ったことのない幼稚園児との交流の在り方を考えるようにした。1年生や幼稚園児が理解しやすく、楽しい内容をクラスの友達と話し合っていくことができた。そして、交流会の活動で幼稚園児に指示を出したり、遊ぶものを渡してあげたりすることができ、自ら考え思考し行動する力を身につけることができた。

3つの実践から、全ての学習から「楽しかった」だけの学習のみならず、楽しさの中から気付いたところを協働的な学びや伝え合い活動に発展することができたと考える。

